

第3回 豊前市立学校通学区域審議会の要点記録

日時 令和4年10月31日(月)10時～10時50分

場所 豊前市役所 3階 第5会議室

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議題

①前回（第2回）の要点について【事前配布】

事務局説明後、質疑なし。市ホームページへの掲載を承認。

②角田地区からの要望・アンケート結果について【資料1-1、1-2】

【資料1-1】角田地域づくり協議会・角田区長会より、角田小校区からの通学全体を原案の中央小から北小に変更して欲しいという要望があった。理由としては、千束地区よりも八屋・宇島地区との交流があり、学校までの距離が短く、公共交通機関の利用ができるからである。

これに対し市として、スクールバスでの登下校のため通学時間に大差がないこと、クラス替えが可能な児童数が長く続くと思われること、児童数が比較的多い八屋小・宇島小・三毛門小の3校とではなく、角田小と同規模の学校が集まる中央小に再編する方が適切だと考えていることからこの計画案としているが、いただいた要望内容は、次回の通学区域審議会において再度議題に上げ協議していきたいと考えていると回答をした。

回答の補足資料として、資料2-1に、角田小が中央小になった場合、再編後15年間は1学年2クラスの学年が継続するという予想を、資料2-2に角田小が北小になった場合、中央小の1学年が1クラスとなる時期が早い状況になるという予想の推移を示している。この予想は、各小学校の児童が一律3%減少したと仮定し推計したものである。

また、児童数が比較的多い八屋小・宇島小・三毛門小との3校とではなく、角田小と同規模の学校が集まる中央小に再編することが適切だと考えている理由の補足として、資料2-3を示す。この資料は、今の子どもたちがそのまま進学した場合の推計である。令和10年度においては、八屋小・宇島小・三毛門小は全

校の児童数が約150人前後、角田小は約50人となる。大村小から横武小の5校は30人から160人であり、人数の多い学校に入るより馴染みやすいのではないかと考えている。

【資料1－2】角田小・中学校PTAによる学校再編成に係る保護者アンケート結果の通学区域に関するものを抜粋している。質問に対し、次のとおりのアンケート結果となった。「再編成計画どおり通学指定校は中央小学校（現千束中）のままでよい。」が26%、「通学指定校を豊前北小学校（現八屋中）に変更してもらう方がよい。」が56%、その他が18%。

事務局：再編後の小学校区についてご審議いただきたい。

委員：アンケート結果を発表しなければ色々考えられることもあるかもしれないが、ここまではっきりと意思表示をされている以上考慮しなくては。少数意見と多数意見とあるので、どっちにしろというのは私の立場では難しい。

会長：アンケート結果が出ているが、これは現在角田小中に通っている子どもが対象で、編成時点では角田小に通ってない方である。アンケートが全てではない。議論するのは難しいが、角田小の将来を考えたときに、結論を出しておかないといけない。

委員：この前も角田の交差点で子どもの自転車事故があった。スクールバスの問題も色々ある。中央小から北小の方に変更してほしいという意見が、区長会、また小中学校のアンケート結果にもあったので、北小の方に変えていただきたいと思う。

委員：通っている方の意向がはっきり出ているのは重視しないといけないと思うが、児童数の推移の資料を見ると、統合した2校の人数に大きく差が開くというのが気になる。ある程度均衡が取れていた方が、合同で何かするとか、日常的に切磋琢磨していくとかできる。あるいは教員の配置にも関わる。規模が揃っていた方が市内全体の教育レベルは上がりやすいし、学校運営もしやすい。教員の配置が片方に偏ってしまう可能性も考えられる。

委員：アンケートを取ればこういう結果は出ると思う。それを見越した上で、将来的に子どものための学級編制がどのようなのがいいか考えていかざるを得ない。

事務局：アンケートも判断材料にさせていただく必要はある。ただ、原案の願いも合わせて判断してもらいたいので少し補足する。

単なる人数合わせという理解が多いようだが、原案に込めた気持ちはそうではない。再編、統合する場合、同規模校が集まるといのは大事な要素と言われている。大きい学校に小さい学校が吸収されると、吸収された学校の子どもは居場所がなく、寂しい思いをすることが見受けられ、保護者も自分たちの学校という意識になりづらく、PTA活動等がしづらくなると言われている。同じように発言できる関係性で、一緒に新しい学校を作っていくことがやりやすさに繋がると考えている。

それぞれの学校に特色を持たせ、新しい地域に支えられた特色ある活動を作りたいと考えている。中央小のイメージとしては、豊前の文化に親しまれる活動、例えば神楽の特色を持っている学校が自然と集まっているので、神楽等を総合的な学習の中で充実させたいという思いがある。北小の方は、中津街道や宇島港と繋げたり、国際的なところに触れやすい環境が共通しているので、そういう特色をもたせた総合的な活動もしやすい。そういうことができないかという思いを込めている。

中規模校を長く維持することも大切である。これは、小学校高学年の専科制度にも関係する。中学校のようにその教科だけを教える先生がいる体制なのだが、一定の学級数がないと定数配置が見込めない。最低でも学年2学級から3学級規模が必要になってくる。学年2学級3学級が続くことが望ましいというのは、単なる数合わせではなく、そういう理由があることもご理解いただきたい。

委員：通学に関してはスクールバスになるので、通学距離は基本的に考えなくていいと思う。一つ疑問なのが、市バスは少し雪が降ったら止まるが、スクールバスはどのような運営の仕方になるのか。

事務局：正式に通学区域が決まってから具体的に決めていくことになる。ただ、今のイメージとしては、地域から子どもが見えなくなるという寂しいことは防ぎたい。集団登校や下校の見守りで子どもたちと繋がる努力をさせていただいているので、そういう光景は残したいと思っている。一番遠いところからスクールバスが順に乗せていくというイメージではなく、学校や公民館など何箇所か集合場所を決め、

そこまでは集団登校で地域の人に見守ってもらいながら集合し、それからピックアップするというイメージである。

今、学校等の施設で週1回程度、放課後に子どもたちの宿題を手伝いながら1時間ぐらい見守る活動をしている。これを拡大させ、スクールバスで帰ってきた子どもを、親が迎えに来るまでの1時間程度、地域の人と宿題をしたり、余った時間で囲碁将棋をしたり、昔の遊びを教えてもらったり。そういうふれあいの場が作れたらいいと考えている。

委員：アンケートの有効回答数が少ないと思う。アンケートを小中学生のPTAだけにとっているが、幼稚園に行っている家庭とか、赤ちゃんがいる家庭とか、若い団地の方とか、そういった方も入れて有効回答数を増やした方がいいと思う。

委員：他の地域でもアンケートを取ると、意見が分かれてまとめていくのは難しいと思う。専門の方が考えて、教育問題が一番大事と言うならば、その説明を地元の方に丁寧に説明しながら前向きに話をしていけばいいと思う。

委員：角田から出ている要望どおり変更しても差し支えないと思う。現時点では北小と中央小の差が激しいようだが、現在の人口を基にして推計しただけである。津波等の災害を考えた時、海の近くに家を建てる人はおらず、今後は海岸沿いでは人口が減っていき、国道から上にどんどん家が建っていくのではないかと思う。そう考えると、中央小学校は児童数が増えていくから、角田地区を北小学校に入れても、将来的に同規模の児童数になると考える。

委員：先ほど説明があったメリットを考えると、同規模の方が学校運営という面で見れば良いと思う。

委員：教育の質や児童生徒のことを考えると、教育の質を一番に考えていただきたい。角田地区はどちらが良いとははっきり言えないが、市バスをその時間だけ増やすとか、スクールバスに乗れなかった時のフォロー等ができればいいと思う。

委員：学年で登下校の時間が違うとかもあるので、フォローをしっかりしていただければ、通学距離の問題はカバーできると思う。また、アンケートの数が少ないのが気になる。現役の保護者だけでなく、広い世代にアンケートを取った方が良いのではないかと思う。

委員：非常に難しい問題だが、教育者としてドライに答えさせてもらおうと、やはり2クラス、本当は3クラスが必要だと思う。将来の子どもたちのことを考えたら複数学級の可能性のある方を提案すべきである。1学級だと人間関係でトラブルがあった時、6年間全く同じ人間関係というデメリットがあるので、少なくとも複数学級が望ましい。それともう一つ、将来推計の34、35人っていうのがちょうど境目で微妙な数字である。やっぱり2クラスの方が良い、角田小を元に戻そうと後出しするのは、かえって迷惑だと思う。やはり豊前市全体の事を考えたら事務局原案の方が良いと思う。

会長：意見が色々出てきたが、子どものことを考えると提言されている案がいいのではないかという案が多いようである。そこで考えると、教育委員会には、角田地区にもう少し丁寧な説明をしてほしいと思う。例えばスクールバスに間に合わなかった時はこういう手立てを考えているというような。そういう丁寧な説明をしながら、承認してもらおうよう頑張っていたきたい。

多数決で決めるわけにはいかないもので、通学区域審議会としては、教育、将来のことを考えると原案のとおりが良いとの意見が多いので、原案どおりということで良いか。

委員：意見として、市の方で、再編に関して考えがあったと思うので、当初から計画されたものが一番良いと思う。アンケートが出ているが、答えている方が本当に将来のことを理解しているかどうかはわかりにくい部分もある。私見だが、絶対反対なのは、中央小と北小に分けるという意見である。地域が一つになるためにはそういうことは絶対に避けなくてはならない。二分するということに関しては、どういう意見が、どういう案が出ようが反対する。

市の方で計画されたとおりに、また、文科省の方でも方針が色々出ているだろうと思うので、そういう意見にできるだけ沿う形でやるのが良いと思う。

会長：地域コミュニティのことを考えると分割は駄目だということで、今のところクラス数、生徒数、その他を考えると原案どおりとし、角田地区に丁寧に説明をしていただきたいと思う。原案で了承していただけるか。

異議なし。全員了承。

③次回内容について

事務局：審議いただいた内容をまとめて、次回は答申案を作成していきたい。案ができたなら、事前に郵送する。それを見てまた意見を伺いたい。

事務局：角田に対して、丁寧な説明を継続するよう指摘をいただいた。そのように努めたいと思う。市報やホームページで情報を発信しているが、お金がないからだとか、子どもがいない数合わせとかで、乱暴に再編しようとしているという理解の方が多いいいことを感じている。そうではなく、教育内容であったり、こういう形を実現したいという願いを込めているという説明が届いていないので、これから繰り返し発信していきたいと考えている。

地区で説明会を開くと参加される方は大体決まっており、保護者世代はあまり参加いただけないという実態もある。市P連等の呼びかけを通して、学校の単Pの研修会や、入学最初のPTA総会などの場で説明させていただくのが、一番多くの保護者に聞いていただく機会ではないかと思う。地域への情報提供やPTAに対する直接の情報提供を今後もしっかり考えて対応したい。

また、今の小学校4年生が、再編された新しい中学で新3年生になるので、そういった子どもへの十分な配慮も必要である。新しい標準服等も対応していかななくてはならないので、そういったスケジュール的なことも今後しっかり伝えたい。

委員：この通学区域審議会は、豊前市の将来を担う非常に大事な審議会だと思うが、議員を委員に入れてない理由は何かあるか。

事務局：以前、この審議会を立ち上げたときには議員も入っていたが、議員が入ると議会での審議で反対や質問をしづらくなるので、法令上、条例上入ることが必要な審議会以外からは外してほしいと議会から申し入れがあり、その時点で条例を変え委員から外した経緯がある。

4. 次回日程等について

11月25日(金)の10時からの開催とする。

5. 閉会